

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度 第1回地域福祉計画推進会議	
開 催 日 時	令和6年6月20日(木) 13時30分～15時30分	
開 催 場 所	宍粟市役所 5階 501会議室	
議長(委員長・会長) 氏 名	地域福祉計画推進会議 会長 藤原 慶二	
委 員 氏 名	(出席者) 藤原慶二(会長)、釜井廣子(副会長)、 波多野好則、三木勇人、春名郷子、鎌田恵司、 山本高則、森田 圭、塚崎暁則、谷林由美、 中林久美子	(欠席者)
事 務 氏 名	健康福祉部 三木部長、安井次長、有元次長 健康福祉部社会福祉課 西嶋課長、木村副課長、大塚係長	
傍 聴 人 数	0人	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び報告事項) ① 開会 会長あいさつ 健康福祉部長あいさつ ② 委員紹介 ③ 会議の目的(趣旨の説明)【資料5-1】 ④ 協議事項 (1) 重層的支援体制整備事業について【参考資料】 (2) 第4期 宍粟市地域福祉計画の市民アンケート 調査結果について【資料1～資料3-2、資料7】 (3) 第4期 宍粟市地域福祉計画の骨子案について 【資料7～資料10】 ⑤ 報告事項 (1) 今後のスケジュールについて【資料5】 (2) 宍粟市地域福祉計画推進会議委員意見書について ⑥ 閉会	

会 議 経 過	別紙のとおり
会 議 資 料 等	<p>【机上配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査集計結果報告書【資料1】 ・アンケート調査集計結果報告書（クロス集計 年齢×設問）【資料2】 ・アンケート調査設問一覧表（第3期・第4期）【資料3-1】 ・アンケート調査集計結果報告書（前回調査等との比較）【資料3-2】 ・兵庫県地域福祉支援計画 概要【資料4-1】 ・第4期 宍粟市地域福祉計画の策定について【資料5】 ・市の取組・評価指標のまとめ（一覧）体系図【資料5-2】 ・第2期・第3期計画【資料6】 ・第4期 宍粟市地域福祉計画（骨子案）【資料7】 ・第4期 宍粟市地域福祉計画（骨子案）比較表【資料8】 ・宍粟市地域福祉計画の構成（第2期～第4期）【資料9】 ・（参考）第3期 宍粟市地域福祉計画施策体系変更表【資料10】 ・重層的支援体制整備事業説明資料【参考】
議 事 録 の 確 認 (記 名)	(委員長等) _____

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
(事務局)	1 開 会
(会長) (部長)	2 あいさつ 会長 あいさつ 健康福祉部長 あいさつ
(事務局)	3 委員の紹介
(事務局)	4 会議の目的（趣旨の説明） 資料5を用いて説明
(事務局)	5 協議事項 (1) 重層的支援体制整備事業について 参考資料を用いて説明
(事務局)	(2) 第4期 宍粟市地域福祉計画の市民アンケート調査結果について 資料1～資料3－2及び資料7を用いて説明
(委員)	アンケートは他市町と比較してどういう傾向が認められるか。
(事務局)	アンケート調査の回答率は回を重ねるごとに減少傾向にある。特に若者からの回答が減少している。 自治会との付き合いがあるという割合が上昇した一方で、人付き合いが面倒だという回答は増加しており、近所付き合いの考え方が都市型に近づいてきているのではと推測される結果が見られた。 このような結果から地域福祉づくりに必要な地域の再構築を模索する都市部と、地域の持続を模索する宍粟市の違いがあると思われる。
(会長)	行政が行うアンケート調査の回答率は3割を超えると多いとされており、4割はすごいことである。
(委員)	福祉への関心の有無のアンケートに回答している人は福祉に関心があると読み取れるのではないかと思う。

<p>(会長)</p>	<p>宍粟市が都市部に近づいてきているというより地域活動が止まってしまったコロナの影響があったと思う。回答率が下がったと捉えられがちであるが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い活動が制限された期間が複数年あったにも関わらず、アンケート結果に著しい変化がなく留まったことは、一定評価ができると思う。</p> <p>否定的な回答もアンケート内容に関心を寄せていると考えられるので、回答してくれた人を大切にしなければならない。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>アンケート調査結果を踏まえて計画を作成していきたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(3) 第4期 宍粟市地域福祉計画の骨子案について</p>
<p>(事務局)</p>	<p>資料7～資料10を用いて説明</p>
<p>(委員)</p>	<p>施策の体系や文言はどこで協議して上がってきたのか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今回の推進会議で示した骨子案は、協議しやすいように重層的支援体制整備事業の取り組みを進めており、かつ人口規模等が類似している自治体の地域福祉計画を参考に作成したものであり、庁内外の協議を経て作成したものではない。</p>
<p>(委員)</p>	<p>資料1の36頁の説明及び骨子案への反映について伺いたい。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今回の推進会議で示した骨子案は基本目標までとなっており、具体的な取り組みなどは示しておらず、資料1の36頁の内容は具体的な取り組みの中で反映することとなる。</p>
<p>(委託事業者)</p>	<p>資料1の36頁は満足度と重要度を問う設問項目をカテゴリ毎に点数化をして加重平均したものである。加重平均した結果、カテゴリごとに大きな差は認められなかった。また満足度と重要度をクロス分析も行っていますが、極端に悪い（重要度が高く満足度が低い）項目は認められなかった。</p>
<p>(会長)</p>	<p>資料7の3頁に地域福祉計画とSDGsについて記載しているが、他の自治体では関係づけることが難しいことから削除したという事例があった。SDGsに関する部分はもう少し検討してはどうか。</p>

(事務局)	骨子案、素案を作成する過程において協議、検討する。
(事務局)	地域福祉計画の評価方法について意見を伺いたい。
(会長)	数値を設定することができる項目については、従来どおり目標値を設定して差し支えないと考える。数値を設定することができない、適当ではないものについては、評価方法を含めて議論する必要がある。
(委員)	第3期地域福祉計画の基本目標1「地域福祉を進める担い手を育てます」に対して、専門職の養成講座などが市の委託事業などで行われているが、この場合、〇人養成するということが目標値になるが、実際に取得した資格を活かしている人数を問われるとふたつの数字が異なることがある。この場合、どちらが計画の目標値となるのか。
(事務局)	有資格者を増やすことが計画の目標であれば、養成講座による資格取得者数が目標値になるが、不足している専門職を確保するための手段として養成講座を行うのであれば、実際に専門職として働くことになった人数が目標値になる。つまり、計画の評価を行うために目標値を設定する場合は、その取り組みの目的を明確にすることが重要である。
(委員)	アンケートに回答した人の地域は山崎が最も多く、波賀・千種は少なくなっている。合併前は町単位で施策を講じていたが、市となり、旧4町が一つの単位となったことで、少数の意見が反映されにくくなっているように感じる。少数であっても困っている人の意見を出向いて聞くような仕組みを作り、生活上の不安や悩みを解決することが必要と感じる。
(会長)	<p>地域福祉を進めるためには、細かな課題をひとつひとつ解決していくことも大切であるが、計画は市単位で考えなければならない部分もある。</p> <p>市単位の計画が自治会や隣保といった単位の課題に対しても、どのような成果が見込まれるのかということも示す必要がある。</p> <p>宍粟市は地域課題に交通手段が挙げられるが、この課題はさまざまな協議体がそれぞれ考えるのではなく、一緒に考えなければいけない。</p> <p>民生委員や老人クラブの活動の中で気づいた情報を専門職に伝え、専門職によるアウトリーチ型支援の仕組みが必要である。</p> <p>宍粟市は地域活動が活発に行われていることから重層的支援体制整備事業を改めて作るのではなく、今ある積み重ねを整理すれば重層的支援体制</p>

	<p>整備事業につながっていくものと思う。</p> <p>地域福祉計画のアンケートや市民の意見の多くは高齢者で、子どもに関することが把握されにくい。子ども食堂が低所得で孤食している子どもへのアプローチの場所から、今は子どもの居場所になってきている。子どもの居場所としての機能は残す必要があるが、貧困層に対しての子ども食堂の必要をなくせるようにするのが市の本来の役割である。</p> <p>対象者が高齢者に偏っているのが従来の地域福祉計画の反省点だと思う。</p> <p>世代や性別、特性に関わらず、あらゆる人が宍粟市で最期を迎えられるよう何ができるか。それを子ども達が経験し、学ぶことで宍粟市に愛着や誇りを持つことが大切であり、その結果が共生社会ではないか。</p>
(委員)	<p>理念は高く行動はローカル的と思う。まちづくりを協議する場で子どもの参加について意見を出した。高齢者も心身ともに健康な最後を迎えられ、子ども達には希望がある福祉にしてもらいたい。</p>
(委員)	<p>地域ケア会議へ民生委員に来てもらい、各地域の課題を検討し、政策形成につなげている、地域課題の抽出は、個別課題から始まり、個別課題が集まったものが地域の課題と思う。</p> <p>市は地域課題を抽出する手段をどう考えているか。</p>
(事務局)	<p>高齢者、障がい者、子どもといった分野ごとの地域課題の抽出については、それぞれの協議体で行われています。分野を超えた地域課題の抽出する手段の一つが重層的支援体制整備事業であると考えている。</p>
(委員)	<p>買い物ができる場所がないことだけを問題としてとらえるとスーパーに移動販売を出してもらえば良いという結論になる。しかしながら、課題に対する過去のプロセスと背景が大切だと思う。地域の人々の生活と問題を知り、宍粟市の文化や歴史的背景を理解しながら問題に向き合うのが大切だと考える。</p>
(事務局)	<p>意見を計画に反映していきたい。</p>
(会長)	<p>限られた時間で意見をまとめることは困難であるため、意見書などを使い、気づいた点や意見などを事務局に提出してください。</p>

<p>(事務局)</p>	<p>6 報告事項</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて</p> <p>資料5を用いて説明</p> <p>次回の開催は、11月頃に第2回の推進会議を開催する予定</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(2) 宍粟市地域福祉計画推進会議委員意見書について</p> <p>宍粟市地域福祉計画推進会議委員意見書の活用方法を説明</p>
	<p>7 その他</p> <p>なし</p>
	<p>8 閉会</p> <p>副会長 あいさつ</p>